
...ということで

飴玉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

…ということ

【Nコード】

N4945G

【作者名】

飴玉

【あらすじ】

とある先輩と可愛い後輩の会話。

「先輩って…好きな子いるんですか？」
どきり。

思わず冷や汗が出そうになった。

「…いるよ」

「そ…そうなんですか」

そっぴいあからさまにがつかりした顔、しないでくれるかな？
もしかしたら気づいててやってるんデスカ？

「…どんな人ですか？」

鏡でも見る…なんて言えないしな。

「んー、見た目も反応も可愛くて、思いやりがあって、いつでも一生懸命で…見てるだけで幸せにしてくれる子だよ。」

「そっ…ですか」

さらにながつかりした顔になる。

「先輩…ご迷惑おかけしてもいいですか？」

「ん？」

「実はですね。わ…私、先輩のことが」

「ストップ」

俺は彼女の唇の前に人差し指を立ててみたりする。

「うっ！？」

先手必勝…ということだ。

「俺の好きな子って君のことだから」

一時停止のボタンを押したかのように彼女は目を丸くしてしばらく止まっていた。

そして、

「なっ…ななな何言ってるんですかつ！？」

赤面した。

「ん？だから、君のことが好きだって…」

「う…嘘ですよ。」

「俺がそんなひどい嘘をつくって思ってるの？」

「やつ…そんなことはないですけど」

「じゃ、迷惑ってこと？」

「そんなこともないです…けど」

彼女は俺の顔を直視できないのかうつむいた。

そういう可愛いことされるといじめたくなるじゃないか。

「じゃ、ストップ解除ということで」

「…ええ！？」

「さあ、お嬢さん。続きをどうぞ？『先輩のことが』…？」

彼女は文字通り、膨れっ面になった。

「…先輩わかってやってるんでしょ？」

もちろん。

「さあ？なんのことだか。そんなことよりさっきの続きをどうぞ？」

彼女は俺に言い返すことをあきらめたらしい。

大きく息を吸い込んだ。

「私は先輩のことが…」

（後書き）

ありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4945g/>

...ということで

2010年11月25日18時13分発行